

同推だより

令和 6 年 12 月
篠原小学校 PTA
同和教育推進委員会

11月の人権を確かめる日に、小学校の人権委員会でPTAから寄贈した絵本『3かい なかしたるか』の読み聞かせをしてくれました。

「絵本の中に出てくる自分に注意してくる子を上級生から守ろうとしたのは、なぜでしょうか。」という問いかけで各クラスで考え合いました。子どもたちに感想を書いてもらいましたので、一部紹介します。

【1年生】

- ・じゅんくんのきもちが、やさしいきもちにかわって よかったとおもいます。
- ・イライラするんじゃないくて、みんなでたのしく がくしゅうをするほうがよかった。2人とも、さいごなかなおりのきもちになって よかった。

【2年生】

- ・友だちがこまっているから、たすけてあげたんだと思います。
- ・ちゅういされていたのに、ゆうきをだして6年生に3かいなかしたるかっていったのが、すごかった。

【3年生】

・たかのりくんがじゅんくんに注意して、じゅんくんがおこったけれど、きゅうにやさしくなって あしたはどうなるんだろうと思いました。

【4年生】

・友だちと仲良くするというのは、友だちどうして助け合い、ささえあうことだと思う。友だちの分からないところを教えたり、ないたら なかせた人に「あやまって」といえるのがいい友だちだなと思った。私もそんな友だちになってみたいです。

・イライラしていてもイライラする友だちを助けるところが、さいこうの友だちだなと思った。上の学年にたちむかって「あやまって」といったところが、友じゃうがふかまったところだなと思った。

【5年生】

- ・たかのりくんは少し上から目せんだったから、じゅんくんはイライラした。上級生のボールが当たって、たかのりくんが泣いている場面があった。じゅんくんは勇気を出して言ったのがすごいなと思った。
- ・友だちがうっとおしいと思っても、やさしくしてあげたらやさしさの分、自分に返ってくると考えた。

【6年生】

・じゅんくんの気持ちもたかのりくんの気持ちも少しずつわかる。最後少しイラついていた相手でも助けた。そのところが心に残った。「3かいなかしたるか」と言っていたけれど、心の中では、本当にそうしようとは思っていなかったのではと思った。本の一番最後の“友だちにえいきょうされて〇〇をやってみよう”というところが、心にひびいた。人になにかを教える時は、相手がどう思うかを考えてから言いたい。

・じゅんくんは、たかのりくんのことをうざいなと思っているところもあったけど、心のすみでは、たかのりくんがいろいろ教えてくれることや、自分とよく話してくれていることは少しうれしかったから、6年生にガツンと言えたんじゃないかなと感じました。

・じゅんくんはたかのりくんをなぜかばって守ってあげたかというと、たかのりくんをほおっておけなかったからだと思います。たかのりくんも大切な友だちだから、なにをされていても守ったんだと思います。じゅんくんはすごいなと思いました。

1冊の本からも、子どもたちは心の中に思いをためていきます。

お家でもぜひ、たくさんの本との出会いや考えていることのやりとりをふやしていただきたいと思います。

